

農家が語る成長を支えてくれたコミュニケーション

人のつながりを絶やさない…

知って欲しい農家の現実、子供たちの経験は農家の希望

■ 代々受け継ぐ「ひかりねぎ」、出荷の様子をスマホで動画に

父から地域ブランド「ひかりねぎ」の生産を受け継ぎ、就農して20年が経ちました。昨年にホームページを開設し、SNSを通じて畑の様子や料理レシピ、時には作物の病気被害状況をアップしています。最近はネギと牛乳を使ったクリームスープのレシピを投稿、また「ひかりねぎ」が出荷されるまでの様子をスマートフォンのアプリで編集して動画を作りました。初心者ながらに意外と簡単に作ることができたので楽しかったです。発信している内容は生産者として何気ない日常ですが、情報発信によって消費者に自然と毎日格闘している農家の現実や生産現場を知ってもらうという意味でやることはやっておきたいです。



・千葉県横芝光町/平野一裕 氏

■ 子供たちの笑顔が原動力、記憶に残る食育活動

「食」を身近に感じてもらいたい思いから食育活動を始めました。JA青年部・女性部、地元の小学校の先生と協力して、現在はさつまいもを使った農業体験とスイートポテトの調理実習を併せて実施しています。開催を継続するうえで、学校の先生の転勤、スケジュールの確保など困難はありますが、子供たちのおいしく食べる姿や畑に入ったときの楽しそうな姿を見るのが原動力です。SNSで活動の様子をアップすると「学生の頃、収穫体験をした」というコメントが寄せられ、農業の実体験が大人になっても記憶されているのは驚きとともに大きな喜びがありました。

今後は「食」に身近な存在の母親を対象に調理実習を開催したり、観光農園で多くの子供たちに農業体験を提供したいです。



・出荷前のひかりねぎ



・千葉県八千代市/稻垣健太郎 氏

試行錯誤の連続!会社員時代の経営的な視点が今でもいかされている



■ 引き継いだ祖父の田んぼ、トラクターの運転はYouTubeから

バリバリ仕事をしていた会社員時代に、祖父から田んぼを引き継いだことで私の農家人生は始まりました。トラクターの運転がわからないからYouTubeの動画を参考にしてみたり、今でも大切に持っている野菜の本で色々な野菜を作ってみたり、毎日が試行錯誤の連続でした。新規就農セミナーなども、広報誌の広告をみて応募したり、そこで出会えた農家の方から栽培方法を聞いたり、肥料の相談をするなど、やれることはすべてやりました。

当時は、新参者で農機なんて高くて買えないから、すべて中古でまかなっていました。まずは、何ができるのかを考え、農作物が出来て、将来的の見込みをみてから判断し、見込みが出てきたら新品を購入するという考えでしたね。

■ 安くておいしい野菜を届けたい、ボランティアとママ友

私は、無人直売所をやっているのですが、根底には「おいしい」と言ってもらえる嬉しさ、喜んでもらいたい思いがあります。しかし、農家なので収穫のことも考えなくてはいけません。そうした時にボランティアを募集したり、パートで妻のママ友達の力を借りたりして収穫を手伝ってもらっています。お礼は採れたての新鮮な野菜。こうした活動を繰り返し行うことでのネットワークが広がっていき、口コミで広がった評判で夏には遠方からとうもろこしや枝豆を買い求めに来る人で、家の前が車でいっぱいになります。



・奥様の手作りPOP



JAグループ千葉

公式ホームページでも
コンテンツ展開中

